

修証義 第一章 総序 第一節

生を明らめ、死を明きらむるは、
仏家一大事の因縁なり。生死の中
に仏あれば、生死なし。但生死、
すなわち涅槃と心得て、生死とし
て厭うべきもなく、涅槃として欣
うべきもなし。是時、初めて生死
を離るる分あり。唯一大事因縁と
究尽すべし。

修証義 第一章 総序 第一節

生を明らめ、死を明きらむるは、
仏家一大事の因縁なり。生死の中
に仏あれば、生死なし。但生死、
すなわち涅槃と心得て、生死とし
て厭うべきもなく、涅槃として欣
うべきもなし。是時、初めて生死
を離るる分あり。唯一大事因縁と
究尽すべし。

修証義 第五章

行持報恩 第三十節

光陰は矢よりも迅かなり、身命は露よりも脆し。何れの善巧方便ありてか、過ぎにし一日を復び還し得たる。徒らに百歳生けらんは、恨むべき日月なり、悲しむべき形骸なり。設い百歳の日月は、声色の奴婢と馳走すとも、其中一日の行持を行取せば、一生の百歳を行取するのみに非ず、百歳の他生をも度取すべきなり。此一日の身命は、尊ぶべき身命なり、貴ぶべき形骸なり。

修証義 第五章

行持報恩 第三十節

光陰は矢よりも迅かなり、身命は露よりも脆し。何れの善巧方便ありてか、過ぎにし一日を復び還し得たる。徒らに百歳生けらんは、恨むべき日月なり、悲しむべき形骸なり。設い百歳の日月は、声色の奴婢と馳走すとも、其中一日の行持を行取せば、一生の百歳を行取するのみに非ず、百歳の他生をも度取すべきなり。此一日の身命は、尊ぶべき身命なり、貴ぶべき形骸なり。